

社協だから
こそできる！

ボランティアセンターの可能性 ～市町社協の取組から～



はじめに

社会福祉協議会は創設当時から市民のボランティア活動の推進を重要な事業として位置づけてきました。昭和60年には国庫補助事業「ボラントピア事業」が、平成3年から「ふれあいのまちづくり事業」がスタートしてボランティア活動推進のための基盤づくりに人や資金が投入されてその充実が図られてきた時代がありました。しかし、その頃スタートした県内外のネットワーク構築をめざした全国ボランティアフェスティバルも平成27年をもって終了するなど、ボランティア活動推進への予算の確保は困難な時代になっています。その中で、市民が「ボランティア」として連想する最たるものは、災害時のボランティア活動になっています。その災害ボランティアセンターを各地で設置運営する社会福祉協議会は、災害ボランティア活動の推進を通じてまた今大きな役割を果たしています。しかし、地域共生社会がうたわれる今、様々な生活支援サービスをはじめ、市民の生活を支えるのは制度や事業だけでなくやはりボランティアとしての関わりが欠かせないことが明らかです。

社会福祉協議会は少ないリソースの中で、平時にボランティア活動を市民の間はどう広めていくかを真剣に考える時期にきています。

静岡県では、市町社会福祉協議会の担当職員で構成される「静岡県ボランティアセンターあり方検討委員会」を令和5年度に設置しました。今それぞれの窓口に寄せられるニーズは何か、またあらゆる世代が活動に参加できるようにするための工夫や活動内容の多様化、また組織が行政からの委託事業が主流となっている現状において他部・所との連携のあり方等について議論を重ねてまいりました。またそれら市町村の現場を支える広域の県のボランティアセンターのあり方もあわせて議論しました。

このたびそのエッセンスを、現場の職員さんが手元において参照しながら、ボランティアセンター担当職員として大切にすべきことをおさえた上で、社会福祉協議会ならではの事務局内連携による支援の円滑化や課題解決力の強化、地域で活動を活発にしていくための参考書として本冊子を作成しました。

新人職員さんはもとより、ベテランながら新たにボランティアセンターに配属される職員の方にも役立てていただけたら幸いです。

静岡県ボランティアセンターあり方検討委員会 委員長 園崎秀治



目次


02 — 静岡県内のボランティア活動事業に係る現状と課題


03 — ボランティアセンターの機能と役割



04 — 静岡県のボランティアセンターのあり方




05 — 事例紹介

05 — 菊川市 受付の工夫と活動スタートのきっかけ作り  

06 — 静岡市 より身近な場所で相談する機会を！  

07 — 浜松市 活動参加までを丁寧にサポートする講座を実施 

08 — 藤枝市 課題の解決に向けた新たな活動の立ち上げ支援  

09 — 島田市 Kintoneを利用した情報共有からSTART！   

10 — 富士市 SNSから「想い」をつないでいます！  

11 — 磐田市 平常時と災害時の「切れ目」をなくす  

12 — 長泉町 地域とつながり、地域力を高める地域福祉教育の展開  

13 — ボランティア受入れガイド

14 — 支援依頼（ニーズ）受付ガイド

15 — 委員コメント

16 — おわりに・資料編

17 — 委員名簿

静岡県内のボランティア活動事業に係る現状と課題

1) コロナ禍を経た時代やニーズ、活動者の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大は、人と人のつながりを前提とするボランティア活動において大きな影響を与え、停滞した活動が多くありました。そのような中、体制を持ち直した団体もありましたが、モチベーションの低下や高齢化が伴って担い手の減少が続きました。

しかし、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、活動が再開し始めた令和5年以降は活動者数も増加傾向にあり、ボランティア活動団体数も増加するなど、活動者・団体へのバックアップ強化の必要性が高まるとともに、新たな活動者の参画を促したり継続的に活動が出来る環境整備の需要が高まっています。

2) 人材育成

近年複雑化、多様化する福祉ニーズに地域で対応するためにも、住民のボランティア活動への関心や理解の促進、担い手の人材育成・支援することが、福祉力の向上につながります。しかし、講座への単発的な参加、その後のボランティア活動の担い手につながらないなど、継続的な関わりが課題となっています。社協ボランティアセンターは、単にボランティア活動の需給調整をするだけでなく、地域住民に対しての意識啓発によって主体形成を促し、地域福祉の担い手として育成するという福祉教育の視点を持ちながら取り組んでいく必要があります。

3) 企業や学生（学校）との関わり

学生などの若年層や、企業、就労している世代に対するボランティア活動の推進は長年の課題であり、地域活動への参画・協働の呼びかけが必要となっています。しかし、教育機関や企業等において、社協ボランティアセンターの認知度は高いとは言えず、社協としても特に企業等へのアプローチは十分とは言えません。

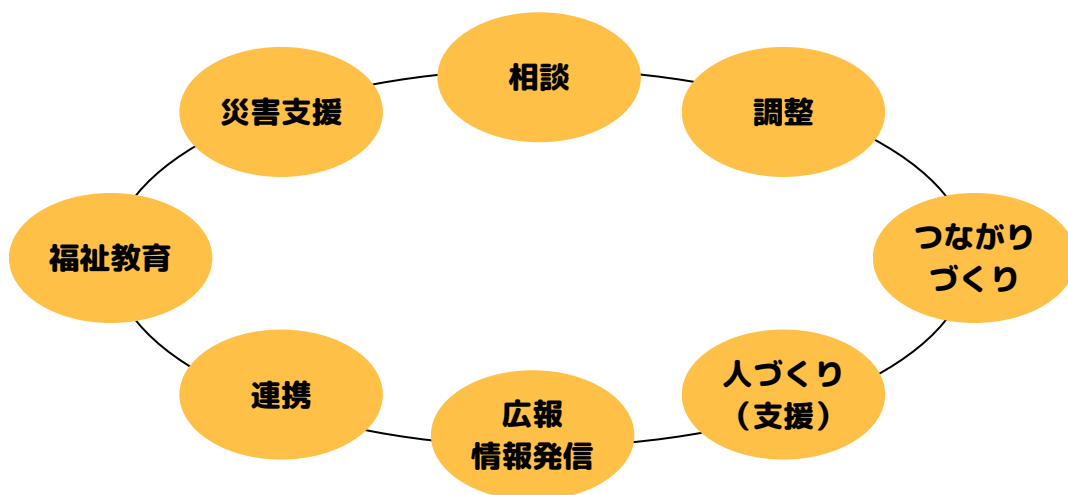
一方で、協働型災害ボランティアセンターの活動をきっかけに、企業等とのつながりが構築される事例も全国的に増えています。活動のきっかけを広げるために、情報を広く公開するなど積極的なPRやボランティア活動にふれあう機会を地域に展開できるようなボランティアセンターの仕掛けや取組が求められています。

静岡県ボランティアセンターあり方検討委員会の主旨・経緯

前述した現状と課題を踏まえ、静岡県社会福祉協議会では、静岡県内社協におけるボランティアセンター事業の更なる活性化と県内のボランティア活動の促進を図ることを目的に、静岡県ボランティアセンターあり方検討委員会を設置しました。

委員会では、県内市町社協のボランティア活動事業に関するアンケート調査や、事例の収集等を通じて、課題や解決策、社協内でのボランティアセンターの位置づけなどを協議、検討、共有しながら、これからの県内社協のボランティアセンターのあり方及び静岡県社協ボランティアセンターのあり方について検討してきました。当報告書に掲載している事例は、社協ボランティアセンターの機能と役割に基づいた担当者のアイデアが詰まっています。ぜひ、手に取った皆様のヒントとなり、県内に広がっていくことを願っています。

社協ボランティアセンターの機能と役割



相談

「誰もがボランティア活動できる地域社会」と「誰も排除しない共生文化」の創造に向けて、幅広い相談を受け止め、断らない相談支援が期待されています。



調整

地域の多様な活動を受け止め、支援するとともに、属性や活動分野を越えた様々な機関・組織・個人をつなぎ、協働して課題を解決することが求められます。



つながりづくり

あらゆる人たちが社会参加できるよう、地縁組織やNPO、ボランティア団体や企業・その他団体とネットワークをつくり、必要な中間支援を行います。



人づくり(支援)

誰もが社会参加できるような機会・場づくりや、課題解決に向けた連携やプログラムの提案、コーディネートを行う役割を担っています。



広報・情報発信

社協ボランティアセンターが情報発信をすることは、地域生活課題やその解決に関わる様々な関係者への周知・意識向上につながります。社協には地域の広告塔の役割も担う必要があります。



連携

ボランティアやNPOだけでは解決できない課題や日常生活自立支援事業等の制度だけでは対応しきれない様々なニーズに対し、多機関・他事業と連携して展開する役割を担っています。



福祉教育

ボランティア活動に関心をもつ地域住民を増やし、「共に生きる力」を大事にするという福祉教育の視点を意識したプログラムの企画運営が期待されています。



災害支援

災害ボランティアセンターの中核を担う社協は、切れ目なく被災者支援・復興支援を担うための平時からの「参加」と「協働」を大切にしています。

静岡県のボランティアセンターのあり方

社協内におけるボランティアセンターの位置づけ

断らない相談支援が求められるボランティアセンターには様々なニーズが集まります。他の事業や制度と連携しながら、ボランティアにつなぐの、制度・支援につなぐのの見極めが重要となります。

組織内での情報共有や連携をスムーズに図るためには、ICTの活用やこまめな情報共有のルーティン化が有効です。



災害支援とICTの活用

令和3年の静岡県東部豪雨災害以降、県内では毎年災害ボランティアセンターの開設をしています。静岡県東部豪雨災害では、コロナ禍に被災したこともあり、全国的にも先駆的に災害ボランティアセンターでのICT導入がされました。このことをきっかけにして、通常時の業務にもICTの普及が進みました。ニーズやボランティアの管理だけでなく、他事業の相談記録なども一元的に管理することで社協内での情報共有にもつながります。また、多くの社協でボランティアの受付をオンラインフォームでの対応にすることで管理・更新業務の効率化につながっています。さらに、ボランティア登録者への連絡ツールとして、チャットやSNSを利用することで、手軽に双方向のやりとりが可能になりました。

有事から平時へ～災害支援からできたつながり～

○静岡市

令和4年に発生した水害の対応で県外の技術系支援団体が支援をしていましたが、復旧後の継続的な関わりは見込めませんでした。そこで、当時災害ボランティアとして活動していた地元のボランティアが集まり、団体を発足。技術も受継ぎ、今では県内の災害時には欠かせない、ボランティアコーディネーター的な存在となっています。

○富士市

2度の災害支援を経験し、市内の様々な人、団体とつながった富士市では、多くのセクターが集まって、災害時に何ができるかをみんなで考える機会を作り、「ちょっとだけ無理が言える関係性」を築いています。

今後のボランティアセンターの方向性

社協のボランティアセンターは、総合的な活動推進・支援体制の土台として、関係者が相互に学び合い、協働できる場、すなわち、プラットフォームであることがあるべき姿と言えます。社協がボランティアセンターを運営する意義として、評価を含めた福祉的視点をもった対応が求められます。問題解決機能だけではなく、自己決定、自己実現していく手助け、後押しをすることで、主体的な活動の後方支援が期待されています。

受付の工夫と活動スタートのきっかけ作り



相談に来てくれても、何をやりたいかわからない方の思いをどう引き出して繋いだらいいかわからないので、既存のグループや施設しか紹介できずにいた。ボランティアをやりたいと思う人はたくさんいるはず。どう掘り起こしたらいいのか…。

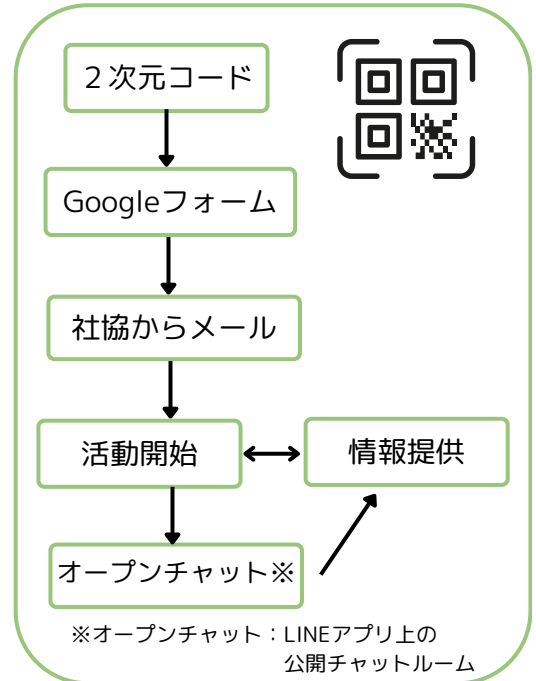
何かボランティアをやりたいという人が多いので、2次元コードから登録してもらい、一緒に考える仕組みを作りました。月に2回集まり（ヘルプマンミーティング）に参加、チラシで箱を作ったり、雑巾やウエスを作りながら、「あんなことしたいね」「こんなことしたいね」とおしゃべりに花を咲かせ、その時自分がやりたいものを作っています。出来たものは、施設に届けて利用者の感想をボランティアさんにフィードバックしています。

【市民の声】

Aさん（70代）：ボランティアやりたいって、ずっと思ってたけど、電話するのも行くのも思い悩んでいた。今回の2次元コード登録は、やってみようかになって気軽にできた。思い切って登録して良かった。もっと仲間が増えてくれたらうれしいな。



Bさん（20代）：小学生の時からボランティアが好きで、大学生になってやりたいと思った時に、どこにいけばいいのかわからなかった。たまたま、社協だよりを見てボランティアセンターを知り、2次元コードが載ってたので、これをやればできるんだと思った。電話や窓口はボランティアをやりたいと思う意思が固い人ならできるけど、若い世代は気が引けちゃうと思う。



今後は…



集まりの話し合いの中から、個人個人のやりたいことの実現に向けて相談支援をしたり、地域の中の困りごと（生活支援）へのボランティア活動にも繋げていきたいです。

今はオープンチャットを使って集まりの連絡をしています、今後はボランティア募集など情報を発信していきたいです。

担当者のオモイ



楽しくやりがいをもって活動されてるボランティアさんを見るのが、担当者の喜びです。活動の輪が広がっていったくれたらいいなと思います。

活動が続けていく中で、ボランティアさんの関心も広がり、そんなちょっとずつの一步一步をとてもうれしく思います。



より身近な場所で相談する機会を！



ボランティア活動の担い手が以前よりも減少している。新規活動者を増やしたいが、なかなかつながらない。特に学生や若者には、もっとボランティア活動に参加してもらいたい…

静岡市社会福祉協議会では、学生や若者のボランティア参加を促進するために、「出張ボランティアセンター事業」を行っています。

高校生や大学生が、ボランティアセンター開設時間に相談に来ることはなかなか難しく、それが原因で夏休みなどしか活動につながらないという課題がありました。それならば、放課後や昼休みなどを利用し、学校で相談対応ができればよいのではと始まったのが「出張ボランティアセンター事業」です。



出張ボランティアセンターでは、放課後や授業、文化祭など、学校の生活サイクルの中で、ボランティア相談、ガイダンス、ボランティア保険の加入手続きなどを行います。実施回数も学校と調整し、毎月、単発、夏休み前など、希望に合わせて決定します。毎月実施している学校では、リピーターの子たちと一緒に軽作業の活動も行いました。

ボランティアについて知りたい、参加したいと思ったら、気軽に相談できる場所を学校の中に作ることで、生徒・学生達とボランティアがつながる機会を増やしています。



直接相談する機会を設けることで、きちんとしたアセスメント、より丁寧なボランティアコーディネートができるようになります。ボランティア活動が、学校に届いたチラシや情報紙の中からではなく、自分の中の「やってみたい」から選ぶことができるのは、とても大きいことだと思います。

今後は…



令和6年度は、高校3校、大学1校で、出張ボランティアセンターを行いました。今後も学校と連携し、通信制、単位制の学校、特別支援学校、専門学校など、様々な生徒、学生にボランティア活動に参加するきっかけを届けたいです。

担当者の
オモイ



ボランティア活動に対する意識は、以前より高まっていると感じます。学校もボランティアに参加させたいと思っている。それが、センターの開設時間によって、相談に来られない、参加できないのはもったいない。アウトリーチ型のセンターとすることで、よりみんなが望むボランティア活動の形に近づいていけると思います。



養成講座の受講生が日常のボランティアにつながりません…

これからボランティアを始める人をターゲットに、計3日間の講座を行いました。開催にあたっては、以下の工夫をしました。

- ①活動を始めるにあたっての心構え等の講義や、活動団体による活動報告、体験参加、活動団体紹介など、活動開始までに必要な知識や過程を網羅した内容としました。
- ②体験参加や活動参加にあたっては、市社協職員が情報提供や活動団体との調整を行いました。また、体験参加にも同行し活動参加までの負担や不安の軽減を図りました。
- ③体験参加後には振り返りのグループワークを行い、疑問点を解消するとともに、参加者同士の仲間づくりを図り、参加の不安の軽減を図りました。



職員の声



- ①講座参加者を実際に活動参加につなげることができました！
- ②活動を始めるにあたって情報がない、一緒に始める仲間がいないなど不安を感じていた方が、活動のイメージができて、仲間を見つけることができました！
- ③情報提供した活動団体の方が当講座に講師として参加する中で、養成講座がマンネリ化していたと感じ、次年度からの講座の開催方法を改めて検討するようになりました！

今後は…



担い手の確保を課題として挙げる地域の活動団体が多い中で、このように活動参加に確実につなげていけるような工夫を今後も行っていきたいと思えます。

丁寧な内容である分、ボリュームが多い講座であるため、そのあたりがハードルに感じないように広報の仕方にも工夫をしていきたいです。

担当者の
オモイ



担い手の確保はこれからますます求められる一方で、とても複雑な課題であると思えます。どのような層をターゲットにしていくのか、その層の活動参加を促すために必要なことは何か、どのようなアプローチが有効なのか…企画を丁寧に行ってきたいです。



問題意識から課題の解決に向けて具体的に支援する方法がわかりません…

それは・・・
ふれあいサロン参加者の
一言から始まりました



近所のスーパーが閉店するそうなの
これから買い物どうしよう・・・

STEP1

地域課題の
見える化の
方法の提案

アンケートを
やってみたら
どうでしょう？



自治会長や町内会長、民生委員・児童委員、サロンの参加者で、この問題について共有したところ、同じように買い物へ行く移動手段や、ゴミ捨てなどの日常生活に困っている人がいることがわかり、藤枝地区社協でアンケートをとることになりました。

STEP2

課題解決の
事例提供

他の地区では
こんな方法が
効果的でしたよ

アンケートの結果、「移動の問題」と「生活課題」が見えてきたため、藤枝地区社協で2つの検討部会（移動支援部会・生活支援部会）を立ち上げ、具体的に地域でできることを話し合いました。

STEP3

立ち上げ支援
組織体制づくり
助成金活用の提案
チラシ作成等



買い物支援事業
「藤枝ふれあい出かけっCAR」
発足

生活支援事業
藤枝第10自治会
「とんからり」発足



STEP4

伴走支援
定例会への参加
ボランティアと利用者
募集の呼びかけ



生活支援事業
藤枝第1自治会（原地区）
「まめっ隊」発足

地域の居場所
はらば
「原っPA」開設



今後は…



地域住民に支え合いの活動を知ってもらい、こうした取組に地域全体で関心を持つような仕組みづくりを進めていきます。また、これらの活動がさらに充実するよう、地域のつながり・関係づくりの強化を推進していきます。

担当者の
オモイ



一つの声を大事にし、拾うこと、そしてそれらを団体（地域）全体の課題として「見える化」し、課題解決につなげることを心がけて団体支援をしています。また、「まめっ隊」のように活動していく中で、地域のつながりを求めるニーズから「原っPA」のような新たな活動が生まれることもあるため、立ち上げ後の伴走支援を行うことも大切にしています。



藤枝市社協キャラクター
キー坊

Kintoneを活用した情報共有からSTART！



業務を超えて、組織内で連携した地域づくりができればいいのになあ…

島田市社会福祉協議会では、地域住民と社協をつなぐコミュニケーションの手段のひとつとして、様々なネットワーク通信技術を活用し、情報発信をしています。LINE登録者やFacebook、Instagramのフォロワー数は年々増加！それを見て福祉に興味・関心を持ち、ボランティア活動への参加者も増えています。

しかし、一方で組織内での情報共有は不十分。個別支援と地域づくりを一体的に行うためには、どのような相談があるのか、どのような地域資源があるのか等を部署に関係なく把握する必要があります。そこで、令和2年度に災害ボランティアセンターの運営のために導入したKintone※を令和3年度から平時の事業でも活用！相談の記録の他、地域や団体の情報を集約し、情報共有をすることから始めました。



経験年数が短くても「検索」をして団体や地域、活動者の様子を知ることができます！



Kintoneの活用により「職員個人」が把握している情報ではなく、「組織」で活用できる情報に変わります。

まず、情報を共有し、部署を超えて一緒に考えることで担当職員間でのやりとりが増え、少しずつですが、日常生活自立支援事業の利用者や困窮相談者が地域活動に参加する機会が増えています。

※Kintone…サイボウズ(株)が提供するクラウド型の業務管理プラットフォーム

今後は…



社協内に入る様々な相談や活動者の情報をKintoneで共有し活かすことにより、地域福祉の推進につながると感じています。「事業」「対象者」などで区切らず、職員間で情報を共有し、『社協だからこそできる』取組を続けていきたいと思ひます。



担当者のオモイ



Kintoneを活用した事業間の情報共有は、別々の部署で行っていたボランティア相談とSCの業務の情報共有から始めました。それを少しずつ拡大。実績報告や事業分析のメリットを感じ、数人でも「コレっていいよね」と感じられれば仲間を増やしていくことができると思ひます。だって便利ですから。



島田市社協キャラクター
はーとちゃん

SNSから「想い」をつないでいます！



ボランティア情報や事業の宣伝、広報の仕方が分からず、多くの人にアプローチできていないので、ボランティアをしたい人や依頼がなかなか入りません…

富士市社会福祉協議会では、SNS(Instagram、Facebook)での周知・広報に力を入れています。以前、世界で話題となった「富士山夢の大橋」の清掃活動をしてくれた、一人の女の子の投稿をアップしました。するとその投稿を見た別の高校生グループが、「自分たちも地域のために活動したい」と立ち上がってくれて、『想い』がつながったことがあります。

エコキャップやベルマークの収集等の協力依頼も掲載しており、「そんなこともやってるんだ!」と新たな方がご協力してくださったこともありました。

また、メールにて興味のある分野の情報発信をする「個人ボランティア」という仕組みも運用しており、多くの方が登録してくれています。現在、募集内容も増やそうと、依頼者がボランティア募集するための仕組み作りも始めました。



・事業の報告やボランティア内容だけでなく、その人がボランティアをやり始めたきっかけや想い、気づきとなる、「エピソード」の掲載を大切にしています。

・SNSもボランティアも「きっかけ」です。その先にある社協への理解や参加したい、応援したい、という「想い」に目を向けています。

今後は…



ボランティア募集依頼が気軽にできるよう、グループや施設だけでなく、多種多様な市民活動団体や居場所に個人ボランティアという仕組みの周知をしていきたいです。ボランティアをしたい人・募集する人、双方がつながりを求めてくれたらと思います。

担当者の
オモイ



ボランティアセンターの強みは、「様々な団体・グループとつながっている」とこと、「地域に出ていく」とことだと思っています。ボランティア情報もただ待っているのではなく、積極的に地域に赴き、収集するよう心掛けています。

今後は、福祉だけに限らない、様々な情報が集まる場所にしていきたいです。

平常時と災害時の「切れ目」をなくす



災害時にたくさん築いた関係を通常時に活かすことができていません

令和4年と令和5年の台風被害に対して、磐田市では災害ボランティアセンターの運営をしました。その際、初めてボランティア活動をするという方が多数いました。高校生や大学生、20～30歳代の若者、企業の従業員の皆様の他、普段は支援される側の子育て中の方や障がいのある方などもいました。また、今まであまり関係が深くなかった地元団体の方からも多くのご協力をいただきました。

災害時



平常時



出会えた皆様との関係継続のため「災害ボランティア大同窓会」を開催。被災された方からの感謝のメッセージをお届けしました。

NPO法人大工村の会員の方を講師として、家屋保全に必要な技術系の活動について研修会を開催しました。

今後は…



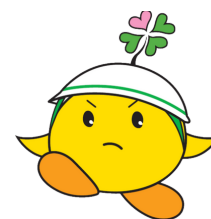
平常時と災害時はつながっています。「非常事態」からその後の「平常時」の地域づくりにつなげることが大切です。災害をきっかけにしてつながったご縁を活かして、平常時の地域福祉活動にも参加していただけるよう関係づくりを進めます。そして、多様な方々がお互いに助け合える「地域共生社会」の実現を目指します。

担当者の
オモイ



私たち社協職員は、ボランティアセンターを入口にして地域の多くの方々と出会えます。災害時には、さらに多くの方々の力と思いが集まります。

支援する人もされる人も、全ての人が誰かの希望の光となるよう願っています。そのために、私たちも力を尽くしたいと思います。

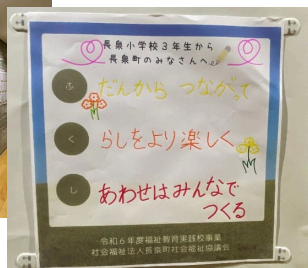


磐田市社協キャラクター
ふくぴー



- ・福祉教育の進め方がわからず、高齢者や障がい者の疑似体験に留まっています…
- ・福祉教育とボランティアセンターが連動していないと感じています

長泉町・長泉町社協で実施した地域福祉計画及び地域福祉活動計画のアンケート結果では、ご近所付き合いの希薄化が地域課題となっています。小学校3年生を対象に「つながり」をテーマとした地域福祉教育を実施したところ、児童が楽しみながら「地域」や「つながり」について地域の方々とともに学び、ともに考える時間となりました。授業を重ねる度、地域の方々との距離がどんどん縮まっていきます。身を乗り出して地域の方々に質問をする児童の姿、ともに地域福祉を考える小学校3年生の姿が頼もしく感じました。



地域の方々と約170名の小学校3年生と一緒に考えた「ふくし」や「つながり」「たすけあい」についての考えや思いを、町の公共施設で掲示させていただきました。児童と考えた言葉は、わたしたちの目指す地域像です。

学校での福祉教育最終日に、地域での交流会をご案内したところ、約50名が参加。児童の保護者も参加してくださり、学校から地域へのフィールドへ移り交流が続いています。児童とつながった地域の方々。「あいさつをする」関係から「対話をする」つながりへ。児童は地域の方々と交流を深め「地域の方々とのつながり」を大切にしてきました。授業のなかで地域の方々との出逢い、相互に気づき、授業終了後も地域の中でそのつながりが広がっています。



今後は…



今年度は福祉教育担当部門と他部門が連携し権利擁護の視点と受援力の視点を取り入れています。本会では総合的な学習の時間、福祉委員会などを活用し、福祉教育を展開しています。福祉教育をきっかけにボランティア活動をしたいという学生がボランティアセンターに溢れるよう福祉への関心が高まるよう種まきをしていきたいです。

担当者の
オモイ



地域福祉の基盤となる他者との対話の機会を積み重ねることにより相互に多様な気づきが促されていきます。こどもたちが助け合いの意識の高い地域で育ったことを誇りに思えるよう、地域の人財とふるさとづくりに努めています。災害時を見据え受援力と地域力を高めていきます。



長泉町社協キャラクター
いずみん

ボランティア受け入れガイド

ボランティアをしたい人とボランティアを必要としている人をつなげるために、さまざまな調整を行っていくことを「ボランティアコーディネート」と言います。社協ボラセンのコーディネートとは、ただ利用者とボランティア活動者をつなぐだけで終わるのではなく、社協の理念とともにボランティア活動を活発に進めてもらうため、ボランティア・利用者それぞれの想いをつなぐことも重要です。ボランティアをスムーズに受け入れるためには、このコーディネートが重要となってきます。

ボランティアをしたい人への聞き取り用紙

相談受付のポイント

①受け止める

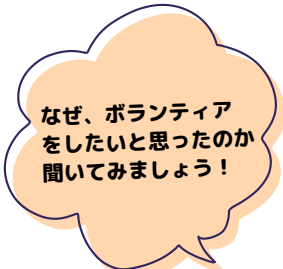
- 1) 思いの受け止め
- 2) 主訴の受け止め
- 3) 必要事項の受け止め

②求める

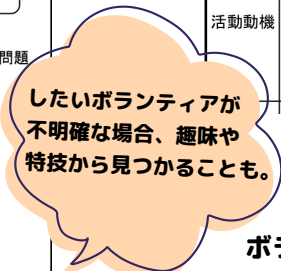
- 1) 活動の場を求める(探す)
- 2) 活動参加者を求める(探す)

どんな分野で活動してくれるでしょうか？

希望する活動分野・内容について	
1. 希望する活動分野(複数チェック可)	<input type="checkbox"/> 高齢者関係 <input type="checkbox"/> 障害者関係 <input type="checkbox"/> 障害児関係 <input type="checkbox"/> 児童関係 <input type="checkbox"/> 環境問題 <input type="checkbox"/> 国際交流 <input type="checkbox"/> 災害関係 <input type="checkbox"/> 収集・寄贈 <input type="checkbox"/> イベント関係 <input type="checkbox"/> その他()
2. 希望する施設	<input type="checkbox"/> 障害者施設 <input type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 高齢者施設 <input type="checkbox"/> 福祉作業所 <input type="checkbox"/> 学校・幼稚園 <input type="checkbox"/> その他()
3. 趣味・特技を活かした活動	<input type="checkbox"/> 家事援助 <input type="checkbox"/> 健康教室 <input type="checkbox"/> 理容・美容 <input type="checkbox"/> 要約筆記 <input type="checkbox"/> 手話 <input type="checkbox"/> 点字 <input type="checkbox"/> 音訳 <input type="checkbox"/> 音楽・楽器演奏 <input type="checkbox"/> 手芸・裁縫 <input type="checkbox"/> 日曜大工 <input type="checkbox"/> 連絡・通信 <input type="checkbox"/> 草刈・庭の手入 <input type="checkbox"/> 安否確認 <input type="checkbox"/> 清掃 <input type="checkbox"/> ペット預かり <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 話し相手 <input type="checkbox"/> 遊び相手 <input type="checkbox"/> 入院患者のお世話 <input type="checkbox"/> 車の運転 <input type="checkbox"/> その他()



ニーズはボランティア活動者にもあります。




氏名		年齢	性別
〒	市区	連絡先	
期間	単発・継続()	活動可能な場所	市内全域・限定()
希望日	交通手段	自家用車・公共交通機関・徒歩	
登録(65歳以上)	有 → 無 「有」の場合	活動希望場所	受入施設 どこでも可
活動希望内容	過去のボランティア活動経験や資格なども聞いても良いですね。		
活動動機	※ 希望活動内容が明確でない人には確認をする。		

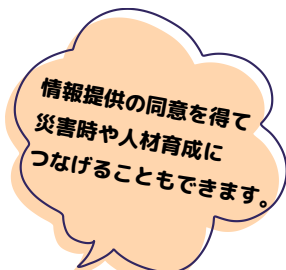
③集める

ボランティアグループ(団体)やNPOの情報や助成金・サービスの情報の収集のほか、日々の人脈づくりで得た情報は貴重です。新鮮な情報の提供が出来るよう整理・更新は忘れずに。

④つなぐ

活動希望者の都合の良い日程や頻度を聞き取って調整をします。

4. 活動可能な曜日・時間帯(複数回答可) ○をつけて下さい																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>曜日</th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> <th>土</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>午前</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>午後</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	曜日	月	火	水	木	金	土	午前							午後						
曜日	月	火	水	木	金	土															
午前																					
午後																					
5. 活動期間																					
<input type="checkbox"/> 単発・短期 <input type="checkbox"/> 夏休みなど一定期間 <input type="checkbox"/> 定期的活動																					
6. 活動頻度																					
週に・・・ <input type="checkbox"/> 1回 <input type="checkbox"/> 2回 <input type="checkbox"/> 3回以上 月に・・・ <input type="checkbox"/> 1回 <input type="checkbox"/> 2回 <input type="checkbox"/> 3回以上 年に・・・ _____回																					
・ボランティア募集への協力(災害時を含む) <input type="checkbox"/> できる ・ <input type="checkbox"/> できない																					
・市社協からの情報提供(講座やイベント等の案内) <input type="checkbox"/> いる ・ <input type="checkbox"/> いない																					
※メールでの案内を希望の場合(パソコンのみ) → E-mail																					
市社協記入欄 																					
<small>* (福) 藤枝市社会福祉協議会は、ご本人の同意を得ることなく、上記個人情報第三者に提供いたしません。(ただし、法令等に基づく場合は除きます)</small>																					



確認事項

- 連絡先は確認しましたか？
- 活動にあたっての留意事項(配慮すること)はありますか？
- 有償や無償の説明、活動に係る費用の説明はしていますか？
- ボランティア保険への加入はしていますか？

支援依頼（ニーズ）受付ガイド（主に災害時）

個人・地域ニーズへの対応や課題解決は、社協本来のミッションとして平時から行っていることであり、災害時であっても大きく変わりはありません。関係機関やボランティア等との地域福祉活動における協働、社協内の横のつながりの強化など、平時の地域福祉活動の延長線上に災害対応があることを意識しながら聞き取りをする必要があります。

様式2-1表1		ニーズ受付票()	
		ニーズNO.	
受付日時		受付者	
※ ここに記載する個人情報は災害ボランティア本部の活動以外の目的で使用しません。			
ボランティア活動先の世帯主	性別	年齢	歳
	家族構成		世帯員数 _____ 名
依頼者	世帯主以外場合 氏名		連絡先
依頼者住所			
活動場所住所			
携帯電話			
電話番号			
家屋被災状況	罹災証明書／ <具体的に>		
依頼内容	<依頼内容の写真添付>		
確認伝達事項	駐車場 水道 トイレ 立会の可否 希望の日時・人数に沿えない場合があることを了承済み		
現地調査日			
活動希望日時	/		
活動最大人数	名		
希望ボランティア			
特記事項			

相談受付のポイント

- 1) 支援する
- 2) 引き出す、待つ
- 3) 聴く
- 4) 一人ひとりを大切に
- 5) 多様性の尊重

健康状態や介護サービスの利用状況、家族との関係や距離なども聞いてみましょう。

ボランティアでは出来ないことがあることをしっかり説明しましょう。

相談者が本当に望んでいることを考えてみましょう。隠れたニーズがあるかも？

ボランティア相談から他事業につなげるなど対応は様々に考えられます。

ボランティアを受けるにあたっての留意事項（同性希望等）も事前に確認しましょう。

依頼受付時に、福祉的観点から見た事項（依頼者の心配ごと等）についても聞き取りましょう。福祉的介入が必要な場合には随時対応してください。

番外編

こんなときどうする？

- Q 担当地区の民生委員児童委員から、「仲間が認知症っぽいんだけど、どうしたらいい？」と相談がありました。
- Q 個人ボランティアと個人の利用者はどうやってつなぎますか？
- Q 障がいをもつ子が安心して遊べる場所がなくて困っています。
- Q 年末年始やゴールデンウィークなどの長期休暇に介護サービスを断られて困っています。
- Q 個人の困りごとや課題を地域の課題として捉え、協力してくれる関係者はいますか？



職場内で話し合ってみよう！

委員コメント

委員長 園崎 秀治

全社協で作成を担当した「強化方策2015」や4年にわたる実践研究会作成の担当職員向けリーフレットを思い出しながら委員会に臨みました。あらためて静岡県内の市町ボランティアセンターご担当の皆さんと、社協にとってボランティアセンターの機能がいかに大切かを共有できる機会となりました。

委員 田中 啓代（富士市）

このたびは静岡県ボランティアセンターあり方検討委員会に参加させていただき、ありがとうございました。各市町の様々な事業や、そこに携わる方々の「想い」を知る機会となり、とても勉強になりました。今後もこの縁を大切に、静岡県内の社協同士つながっていったらいいな、と思います。

委員 渡邊 麻由（長泉町）

社協ボランティアセンターは、分野・領域を超えた地域福祉を担うあらゆる人々が出会う福祉の「プラットフォーム」の役割が期待されており、地域共生社会を実現していくために大切な参加支援の拠点としての機能があると考えます。ボランティアセンターというツールを通して社協全体の活性化及び地域福祉の一層の発展につながることを改めて実感しました。

委員 大澤 佑介（静岡市）

コロナ禍により、人々の生活様式や価値観が大きく変化する中で、ボランティア事業にも、今までとは違った視点、ひらめき、アイデアが求められています。ここで紹介されている事例がヒントとなって、新たな事業へとつながっていければ幸いです。

委員 秋山 友紀（藤枝市）

地域住民の皆さんが、いつまでも笑顔で暮らし続けることができるように、またボランティアが生き生きと活動し、支え合う地域になるために、頼れるボランティアセンターであるよう、今後もさまざまな人とのつながりを大切にしていきます。このような機会をいただき、ありがとうございました。

委員 大石 江利子（島田市）

社協が行う事業は年々増えていますが「ボランティア事業」は、地域住民にとっていつの時代も身近な「福祉の入り口」。だからこそ、今、何が求められているかを把握し、多様な取り組みを実施することが大切だと思います。そのために、静岡県内の社協が「人」や「情報」でつながり、高め合えればステキですね。

委員 堀川 直樹（菊川市）

VCあり方検討委員会に参加させていただき、ありがとうございました。ボランティア推進は社協として柱の事業だと思っています。地域福祉の推進が制度化していく中で、社協ボランティアセンターがどうあるべきなのか今回をきっかけに今後、オール静岡で考え、盛り上がっていくことを願います。

委員 佐野 清美（菊川市）

ボランティア担当を続けていると、迷うことや悩むこともでてきます。災害時だけではなく、社協同士連携していけるといいですね。ボランティアセンターの認知度は低いと思うので、“ボラセン”の魅力や良い所を発信していきたいです。委員会に参加させていただき、ありがとうございました。

委員 山田 佳名子（磐田市）

この委員会に参加して、社協のボランティアコーディネーターは活動紹介だけで終わらず、その後もつながるようにさまざまな工夫や仕掛けをされていることを学びました。

この冊子には、各市町社協の新鮮な取組が詰まっています。ボランティア担当者の支えのひとつになることを願っています。委員会へ参加させていただき、ありがとうございました。

委員 浅山 恵一（浜松市）

社協ボランティアセンターの位置づけを考える良い機会となりました。改めて自組織のVC機能を点検し、必要なことが取り組める体制に変えていかなければと思いました。

また、VCは自由度の高いセクションであるからこそ、いい意味で“社協らしくない”“型にはまらない”発想を持つことが大切だと思います。

おわりに 拡がれ！社協ボランティアセンター

社協が設置するボランティアセンターは、居住する方々のボランティアや市民活動を希望するまたは、活動を受けることを希望する皆さまの窓口です。

社協は、地域福祉の推進と地域社会づくりのために、住民や地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員等の地域型組織と志縁型（テーマ型）のボランティア団体との連携と協働を支援しています。

社協ボランティアセンターは、地域の支援ニーズと活動課題を共有する場を設けるとともに、多様な関係者が参加できるネットワークづくりに取り組みます。

今後も拡がり続ける社協ボランティアセンターにご期待いただき、活動に対するご協力をよろしくお願いします。

静岡県社協ボランティアセンター 所長 松田 智

資料編

本冊子及び静岡県ボランティアセンターあり方検討委員会に関するすべての資料を掲載しています。

事例などは、更新させていただきますので、ぜひご確認ください。



<https://x.gd/hSFCX>

- 01 令和7年2月28日開催「市町社協ボランティア担当者会議」資料及び講義動画
- 02 ボランティアセンターの可能性～市町社協の取組から～
（静岡県ボランティアセンターあり方検討委員会報告書）
- 03 県内社協のボランティアアセスメントシート サンプル
- 04 県内社協対象ボランティア事業に関するアンケート調査結果
- 05 静岡県ボランティアセンターあり方検討委員会会議録

令和7年2月時点

委員名簿

任期：令和5年12月1日～令和7年3月31日
 (令和6年4月1日変更)
 (敬称略、順不同)

区分	氏名	所属	役職
委員長 有識者	園崎 秀治	オフィス園崎	代表
委員	田中 啓代	富士市社会福祉協議会	地域支援係主事補
委員	渡邊 麻由	長泉町社会福祉協議会	地域福祉活動部門主任
委員	大澤 佑介	静岡市社会福祉協議会	清水区地域福祉推進 センター リーダー
委員	秋山 友紀	藤枝市社会福祉協議会	地域支援係主事
委員	大石 江利子	島田市社会福祉協議会	地域つながり 推進班長
委員	堀川 直樹	菊川市社会福祉協議会	ボランティア センター長
委員	佐野 清美	菊川市社会福祉協議会	ボランティア センター職員
委員	山田 佳名子	磐田市社会福祉協議会	地域福祉係主任
委員	浅山 恵一	浜松市社会福祉協議会	地域福祉係長

令和5年度 (役職は令和5年度時点)

委員	久保倉 颯大	富士市社会福祉協議会	地域支援係主事補
委員	窪田 亮	長泉町社会福祉協議会	地域福祉活動部門主査

事務局 (静岡県社会福祉協議会)

松田 智	福祉企画部長 ボランティアセンター所長	松永 和樹	地域福祉課長
小澤 裕美	地域福祉課主幹	鈴木 貴也	地域福祉課係長
漆畑 友香	地域福祉課主事	藤下 真由	地域福祉課主事



発行者

令和7年2月

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会
福祉企画部地域福祉課
静岡県静岡市葵区駿府町1-70
054-254-5224

👉 shizuoka-wel.jp

✉ volucen@shizuoka-wel.jp

静岡県ボランティアセンターあり方検討委員会報告書